

事業番号	0	4	3
実施計画事業	○		
実施計画事業以外の事業			

令和元年度 事務事業評価シート

1. 事業の概要

事務事業名	支え合いいきいきポイント推進事業				担当部	市長公室					
事業期間	平成29年度 ~ 令和2年度以降				担当課	協働推進課					
新基本計画 (平成26年~平成30年)	基本施策	10	展開方向	1							
予算区分	一般会計	款	02総務費	項	01	目	09	大	03	中	03

2. 実施状況

地域における支え合い・助け合い活動の担い手を増やすとともに、その継続性や生きがいづくりを行うため、介護事業所(通所型、施設型)、地域のサロンや認知症カフェなどのお手伝い、地域協議会を通じた高齢者のちょっとした困りごと支援などを行うことにより、地域での支え合い、助け合い活動を推進し、その活動を広げるとともに、高齢者の介護への理解を深める。また、そうした活動に対し、市内限定商品券と交換できるポイントを付与することで、地域活動、ボランティア活動に参加するきっかけや、活動の励み、楽しさを持っていただき、活動への参加者の裾野を広げるとともに地域経済の活性化にもつなげる。

【制度の概要】
支え合いいきいきポイント制度として、「介護施設ポイント」(区分:施設)「サロンポイント」(区分:地域)「地域ポイント」(区分:地域)の3種類のポイントがあり、それぞれの活動に対し、ポイントを付与し、市内限定商品券と交換する。
※1ポイントを1円。各区分での1日の上限を200ポイント、年間上限を5,000ポイントとする。
・介護施設ポイント:18歳以上の市民を対象とし、市内の介護事業所において、補助的な作業(イベント、清掃の手伝いなど)を行った場合にポイントを付与する。
・サロンポイント:18歳以上の市民を対象とし、各地区で行われているサロンや認知症カフェ等での補助的な作業(参加者の受付、準備、片付けなど)を行った場合にポイントを付与する。
・地域ポイント:地域協議会が設立されている小学校区の区域内に居住する18歳以上の市民を対象とし、地域協議会を通じて行う高齢者のちょっとした困りごと支援に協力(庭の草取り、電球交換など)した場合にポイントを付与する。

【平成30年度実績】
・お互いさまサポーター数:981人(65歳未満:138人 65歳以上:843人)
・ポイント交換者数:849人(65歳未満:108人 65歳以上:741人)
・交換ポイント数:2,071,500P(65歳未満:229,500P 65歳以上:1,842,000P)※1人あたり平均:約2,440P
・受入団体数:101団体(介護施設:25団体 サロン(認知症カフェ含む):75団体 地域協議会:1団体)※H31.2.28現在

3. 総合診断

事業費	項目	単位等	H27	H28	H29	H30	R1	
直接経費	決算額	財源						
		一般財源	千円	-	-	1,102	690	
		国・県支出金	千円	-	-	0	0	
	その他	千円	-	-	509	1,842		
	計(A)	千円	-	-	1,611	2,532		
	対前年比	%	-	-	-	157.2%		
	(当初)予算額	千円	-	-	1,150	1,955	2,441	
人件費	正職員	人	-	-	0.6	0.4		
	正職員(平均人件費)	千円	-	-	4,492	2,994		
	その他職員	人	-	-	0	0		
	その他職員(時給×年間時間)	千円	-	-	0	0		
計(B)	千円	-	-	4,492	2,994			
事業費合計(C=A+B)		千円	-	-	6,103	5,526		
指標	成果指標	1年間に支え合いいきいきポイントを受け取った人数	目標	-	-	300	700	1,115
		実績	-	-	642	889		
	ポイントの市内限定商品券への交換率(%)	目標	-	-	90.0	90.0	96.0	
		実績	-	-	84.3	95.5		
	活動指標	支え合いいきいきポイントの活動場所として登録した団体の数	目標	-	-	20	70	127
			実績	-	-	59	101	
	ポイント制度登録者数	目標	-	-	384	984	1,400	
		実績	-	-	695	981		
@事業費	受益者数(a)	人	-	-	-	-		
	受益者あたり事業費(b=C/a)	円	-	-	-	-		

診断結果	改善点は見られない	改善点が若干見られる	○	大いに改善すべき
	<p>事業費(直接経費)は、平成29年度から平成30年度にかけて増加となっている。この要因は、本事業は、平成29年10月から制度開始となっており、実施期間が5ヶ月と短かったことも一つであるが、平成30年度には、制度の周知、ポイントの繰越制度やサロンポイントの対象活動の拡充、対象施設の拡大による制度変更により、制度の利用が広がったものと考えられる。</p> <p>成果指標の実績値は目標値に対して上回っているが、活動指標においては、登録した団体の数は順調に増加しているものの、内訳としてサロンや介護施設は、増加しているが、地域協議会での支え合い活動については、令和2年度、4月現在で2協議会にとどまっているため、地域協議会代表者会議での状況共有や、個別に働きかけを行うなど横展開を図っていく。</p> <p>平成31年度より介護施設ポイントの対象者を現行の「65歳以上」から「18歳以上」に変更したため、活動者の裾野も広がったことから今後は、若いサポーターの増加にも期待が出来る。</p> <p>また、平成30年度の交換実績から各ポイントで年間上限に達したサポーターが全体の約1割いたことから、そのサポーターが上限到達後も引き続き活動していく励みになるようなインセンティブを検討し、令和元年度の交換からの運用を目指す。</p>			

4. 総合評価

事業の方向性	拡大	対象の拡大や手段の充実等により、事業のボリュームを拡大すべきもの			
削減額・対象	事務事業評価による額	千円	予算区分	節	節
評価結果	<p>少子高齢化がますます進行し、生産年齢人口の減少による税収減や、高齢者福祉などに係る福祉関連経費の増加が懸念される中、元気な高齢者などが支え合い・助け合い活動の担い手として活躍することが重要である。</p> <p>そのためには、支え合いいきいきポイント制度を活用し、サロン・介護施設の充実やお互いさまサポーターの増加が有効な手段であると考えられる。</p> <p>また、地域協議会における地域住民の地域住民による日常のちょっとした困りごと支援などの活動は、行政の手の届かない範囲での支え合い・助け合い活動であり、その担い手を増やすためのインセンティブとして地域ポイントの活用は効果的な手段であると考えられる。</p> <p>現在、篠岡小学校区と味噌小学校区の2地域協議会が地域ポイントを活用した高齢者支援活動を実施しており、地域の高齢者などから喜ばれている。この好事例を他の地域協議会へ横展開していくことで支え合い・助け合いの地域づくりに繋がるものと考えられる。</p> <p>こうしたことから事業の方向性は、拡大とした。</p>				